

畜産業の振興について

令和7年10月
農林水産部畜産課

目次

I 畜産業の概要

1 産出額	4
2 家畜の飼育状況	4

II 主要家畜の生産振興

1 肉用牛の振興	5
2 酪農の振興	9
3 養鶏・養豚の振興	13

III 資源循環型畜産の推進

1 飼料対策の推進	16
2 良質堆肥の生産と有効利用の推進	18

IV 家畜衛生の向上と畜産物の安全性確保

1 家畜衛生の向上	19
2 畜産物の安全性確保	21

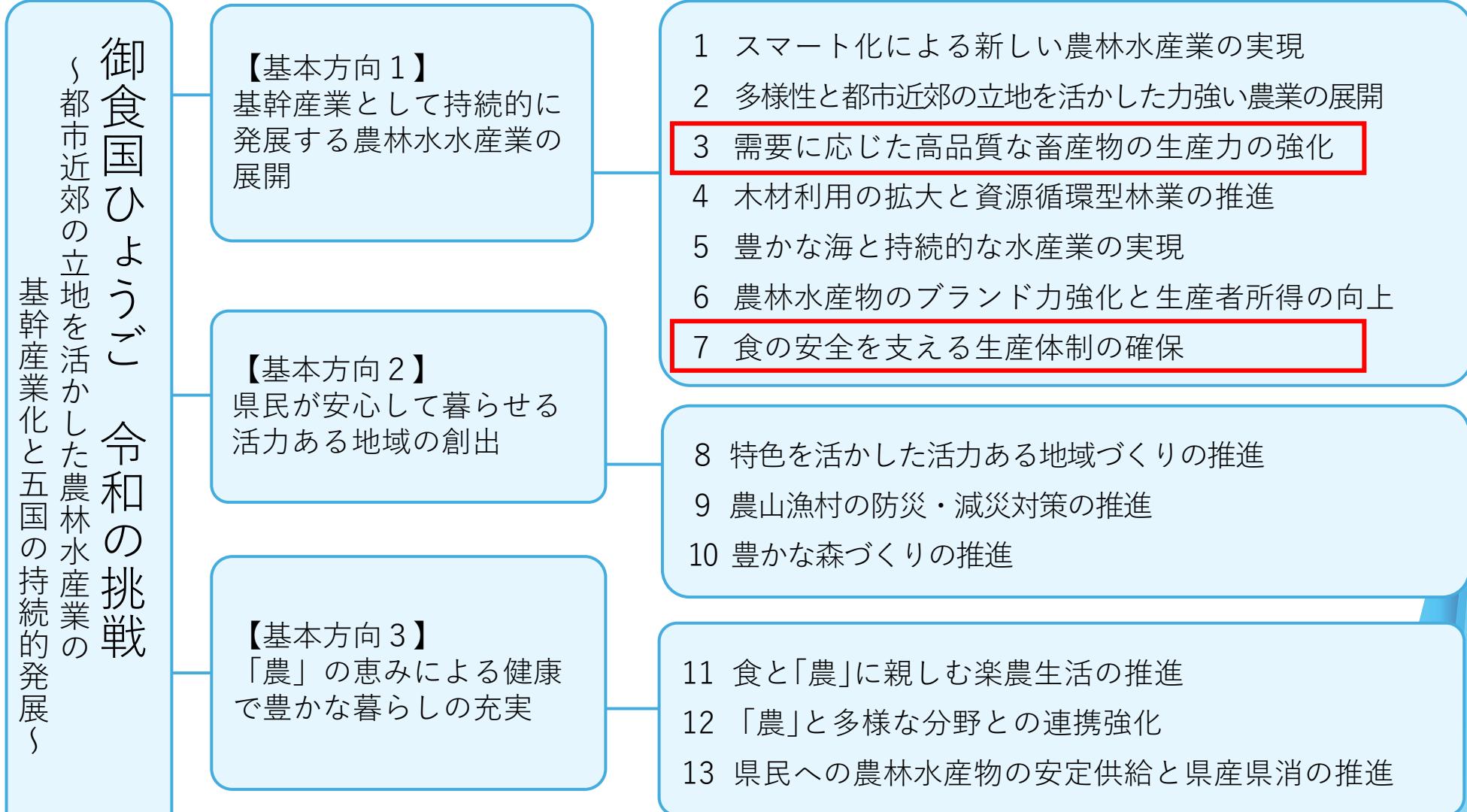


ひょうご農林水産ビジョン2030施策体系表における位置づけ

【めざす姿】

【基本方向】

【推進項目】



（赤枠）：資料に掲載している施策項目

I 畜産業の概要

1 産出額

- 令和5年の本県の農業産出額1,677億円のうち、**畜産の産出額は728億円(43.4%)**で本県農業の主要部門
- 近畿の畜産産出額の63.9%で、京阪神都市圏における畜産物供給基地として重要な位置づけ
- 家畜別では、肉用牛が186億円(前年比103.3%)、乳用牛が110億円(同100.0%)、豚が20億円(同117.6%)、鶏が411億円(同130.9%)

2 家畜の飼育状況

- 飼育戸数、頭羽数とも一部の畜種を除いて減少傾向
- 主な飼育地は、**繁殖雌牛は淡路と但馬、乳用牛は播磨と淡路、豚は阪神、採卵鶏は播磨、肉用鶏は但馬**

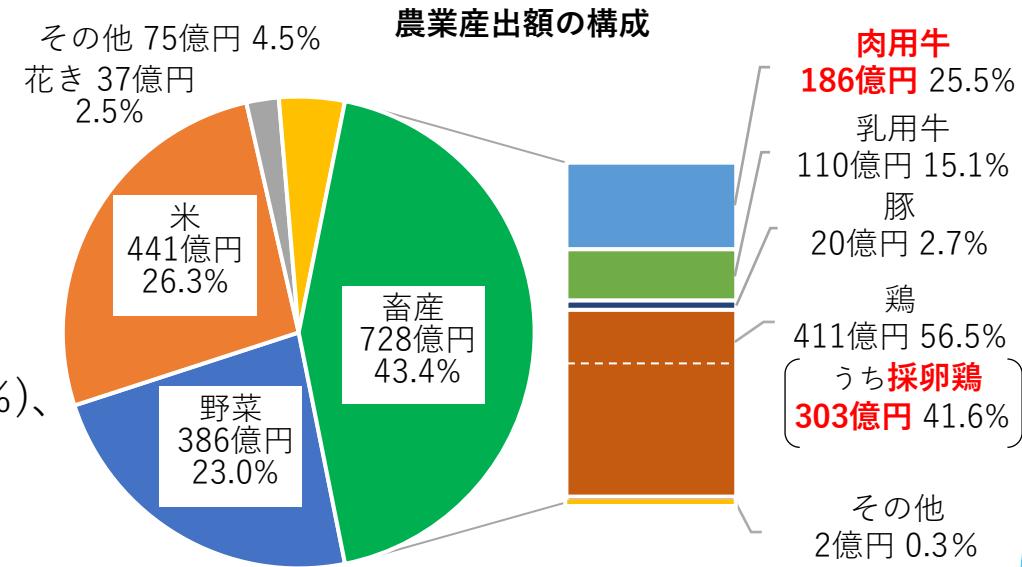
家畜の飼育戸数及び頭数

区分	肉用牛	繁殖雌牛	乳用牛	豚	採卵鶏	肉用鶏
戸数	976 (94.8)	867 (94.1)	184 (92.0)	16 (84.2)	43 (100.0)	32 (76.2)
全国順位	10	10	13	33	13	10
頭羽数	57,200 (97.9)	18,000 (100.0)	11,600 (94.3)	20,000 (97.1)	565 (91.1)	241 (108.5)
全国順位	10	9	15	37	12	12
頭羽数/戸	58.6 (99.8)	20.8 (106.7)	63.0 (102.4)	1,250.0 (115.3)	13.2 (91.1)	7.5 (142.2)

※「畜産統計(令和7年2月1日現在、豚・鶏*は令和6年2月1日現在)」(農林水産省)

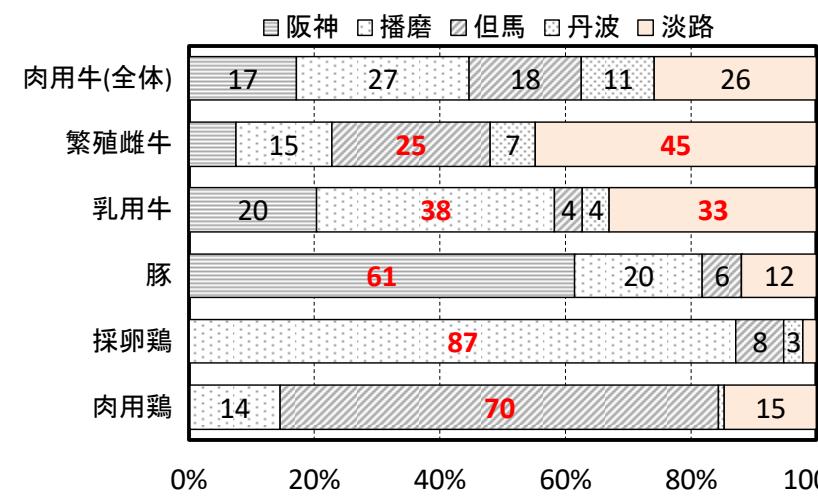
* 2025年農林業センサス実施年のため未調査

※ 採卵鶏は1,000羽以上の経営、肉用鶏は年間出荷羽数3,000羽以上の経営



※農林水産省「農業総産出額(R5)」

家畜飼育頭羽数の地域分布



II 主要家畜の生産振興

1 肉用牛の振興

神戸ビーフの需要に応えるため、但馬牛繁殖雌牛の増頭や受精卵移植による肥育素牛の増産を推進するとともに、但馬牛や神戸ビーフの歴史、魅力等の情報発信を充実

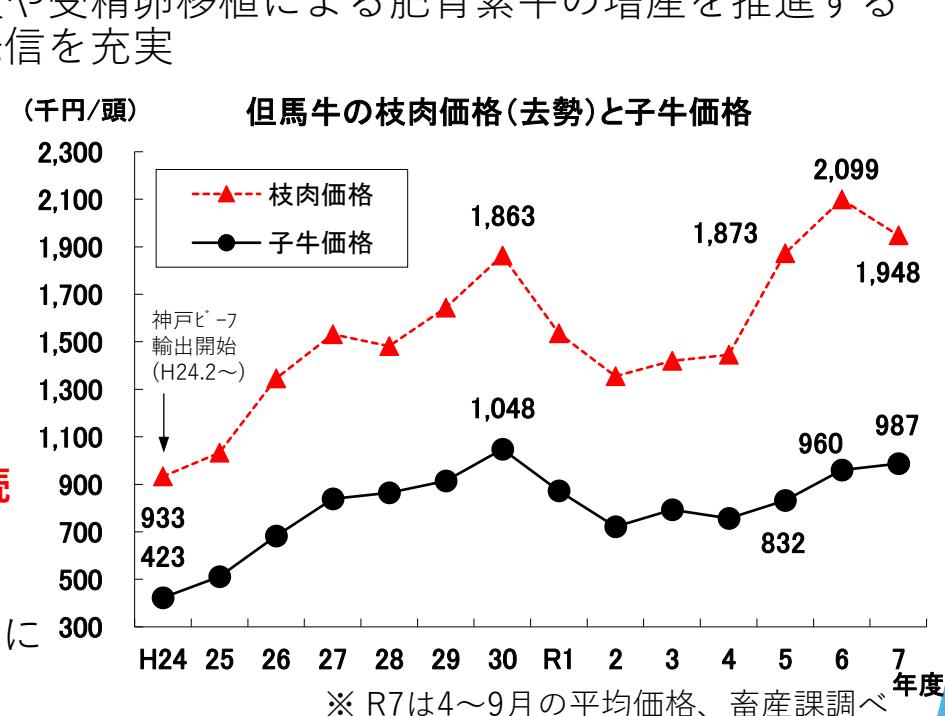
(1) 最近の動き

ア 但馬牛の枝肉価格と子牛価格

- 枝肉価格と子牛価格は、令和元、2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により下落
- 令和3年度以降は国内外の経済活動の再開とともに回復に転じ、**高値傾向で推移**
- 特に**子牛価格は令和4年度以降、全国トップ価格が継続**

イ 但馬牛繁殖雌牛頭数の推移

- 令和6年度の**但馬牛繁殖雌牛の頭数は**高齢者の廃業等により、廃用が新規導入を上回り、13,577頭に**減少**
- 繁殖経営戸数は867戸(前年度比94.1%)と減少、1戸あたりの飼育規模は15.6頭(同104.0%)に拡大



但馬牛繁殖雌牛頭数

年 度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R12目標
繁殖雌牛	14,060	14,145	14,001	13,993	13,824	13,577	16,000
新規導入	1,805	1,844	1,681	1,711	1,621	1,519	—
廃用	1,227	1,759	1,825	1,719	1,790	1,766	—
前年比	+578	+85	△144	△8	△169	△247	—

II 主要家畜の生産振興

(2) 主な振興施策

ア 繁殖雌牛の増頭対策

(ア) 法人等の参入支援

- 畜産業への参入希望者と用地等の提供者を「畜産参入支援センター」(畜産課内)でマッチングし、活用可能な事業も紹介するなど総合的に支援
- 民間企業や県外からの移住者による牛舎整備、また酪農の空き牛舎を活用した但馬牛繁殖雌牛飼養農家の新規参入等が実現

(イ) 繁殖雌牛の導入及び牛舎整備の支援

- 規模拡大や新規参入を推進するため、繁殖雌牛の導入や牛舎の整備、増改築を支援
- 新規参入者等に分娩間近の雌牛を斡旋する「妊娠牛供給センター」の運営を支援

イ 神戸ビーフの増産対策

(ア) 但馬牛受精卵移植による「神戸ビーフ」供給力強化

- 乳用牛等に但馬牛受精卵を移植して、神戸ビーフを増産

受精卵移植による但馬牛生産状況

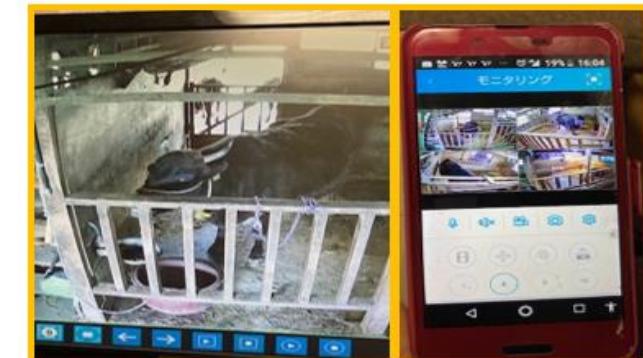
年次	R1	R2	R3	R4	R5	R6
頭数	299	366	434	488	426	424

(イ) スマート畜産の推進

- 大規模化による交配適期の見落としや子牛の死廃事故を回避して生産性を向上するため、カメラやセンサーによる感知通報システム等の導入を推進



繁殖・肥育一貫農場における牛舎整備（丹波篠山市）



カメラによる分娩等監視システム（洲本市）

II 主要家畜の生産振興

(ウ) 神戸ビーフ認定頭数と認定率の向上

- 県が開発した「但馬牛肥育マニュアル*」の定着や但馬牛の改良により、**近年、神戸ビーフ認定率は90%超**

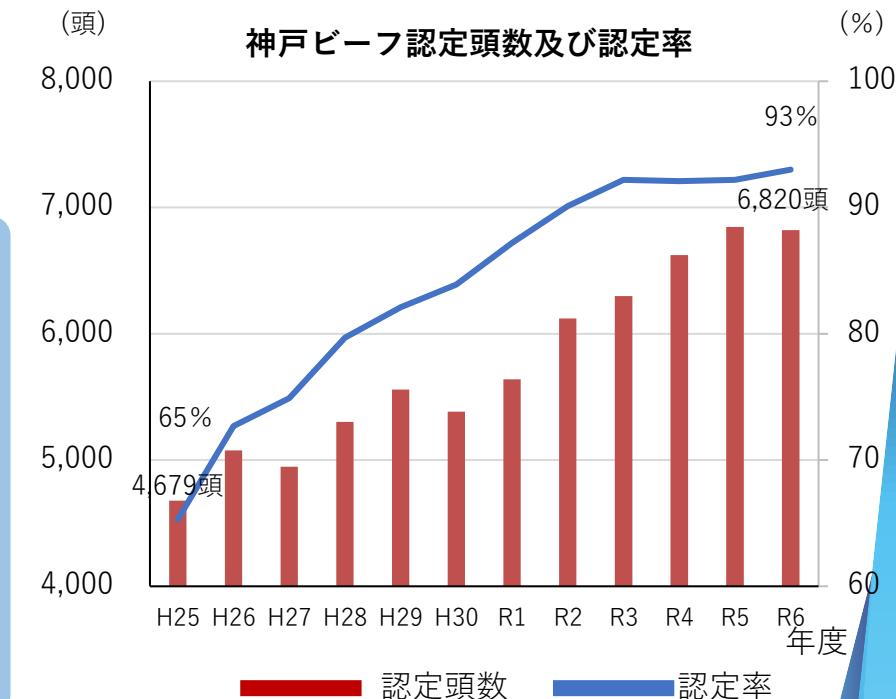
* 肥育素牛の月齢や栄養状態に適した飼料給与方法等をマニュアル化

【但馬牛と神戸ビーフの定義（神戸肉流通推進協議会）】

県内で産まれ、県内で肥育した但馬牛で、かつ県内のと畜場で処理した牛肉を
但馬牛、その中で一定の基準を満たすものを神戸ビーフと定義

歩留等級	「A」 又は 「B」											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
肉質等級	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
脂肪交雑	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

ブランド 28~60ヶ月齢 雌:270~499.9kg、去勢:300~499.9kg
「神戸ビーフ」
「但馬牛（ぎゅう）」



ウ 但馬牛の改良

- 令和4年度からゲノム情報を活用した改良に着手し、**但馬牛固有の遺伝的多様性の確保と経済性に優れた種雄牛づくりを推進**
- 従来の統計学的分析で8つのグループに分けられていた**但馬牛が、15グループに分類できることを確認**
- 但馬牛の**産肉性・種牛性*の育種価**（親牛からの遺伝的能力）が、ゲノム情報を活用した育種価（ゲノム育種価）と高い相関を示すことを確認

* 産肉性：枝肉重量や脂肪交雑等、種牛性：分娩間隔等



ゲノム育種価を活用し、北義谷等城崎系種雄牛の後継牛作出を加速化

II 主要家畜の生産振興

エ ブランド強化と需要拡大

たじまうし

(ア) 但馬牛・神戸ビーフの情報発信の充実

- 「県立但馬牧場公園」(新温泉町)では、但馬牛を学び、触れ、食すことができるプログラムにより、世界農業遺産をはじめとする但馬牛の歴史や魅力を発信
- 「神戸ビーフ館」(新神戸駅(コトノハコ神戸))では、神戸肉流通推進協議会ほか関係団体とともに神戸ビーフの歴史や定義・美味しさなどの魅力を発信

(イ) 神戸ビーフの輸出促進

- 神戸ビーフの輸出量は令和6年度47t (前年度比68%)となり、現在、世界27カ国・地域に輸出
- 42カ国・地域、580店舗の神戸肉流通推進協議会の指定登録店（レストランや精肉食肉販売店）で販売
- 食肉センターを中心としたコンソーシアムによるターゲット国での神戸ビーフプロモーションを実施



大阪・関西万博で開催された「ひょうごフィールドパビリオンフェスティバル」に但馬牧場公園、神戸ビーフ館が出展

神戸ビーフの輸出状況 (t)

輸出先	EU等*1	米国・カナダ	香港	台湾	その他*2	合計
R3年度	22.8	14.7	8.4	8.4	18.7	73.0
R4年度	21.7	14.2	9.3	8.5	24.1	77.8
R5年度	19.8	15.8	3.8	6.1	23.0	68.5
R6年度	21.4	12.6	3.8	3.7	5.4	47.3

* 1 ドイツ、モナコ、デンマーク、ベルギー、オランダ、スイス、フランス、イギリス、スペイン、イタリア

* 2 マカオ、タイ、シンガポール、ベトナム、ロシア、フィリピン、UAE、メキシコ、オーストラリア、カタール、サウジアラビア、マレーシア

※畜産課調べ

II 主要家畜の生産振興

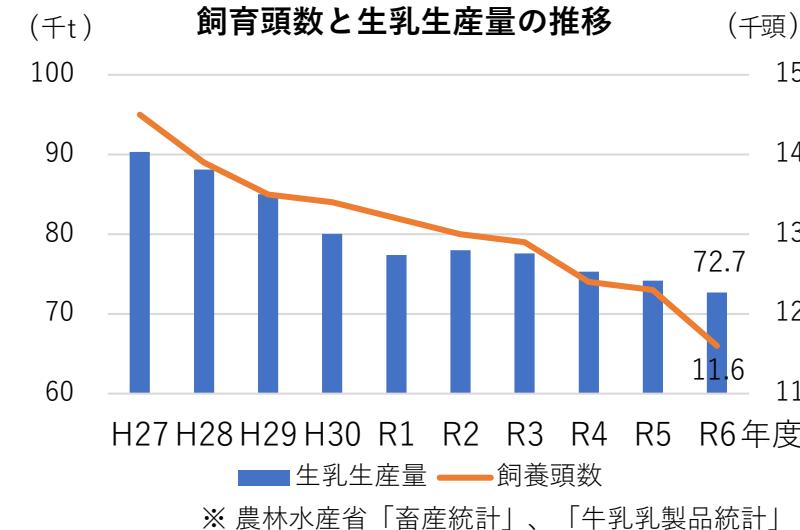
2 酪農の振興

飼料価格の高止まりや酷暑化などにより厳しい経営が続く中、生産性の高い牛群への改良やスマート機器の導入等を進め、収益性の向上と生産基盤の確保を図るとともに、県産牛乳・乳製品の需要を拡大

(1) 最近の動き

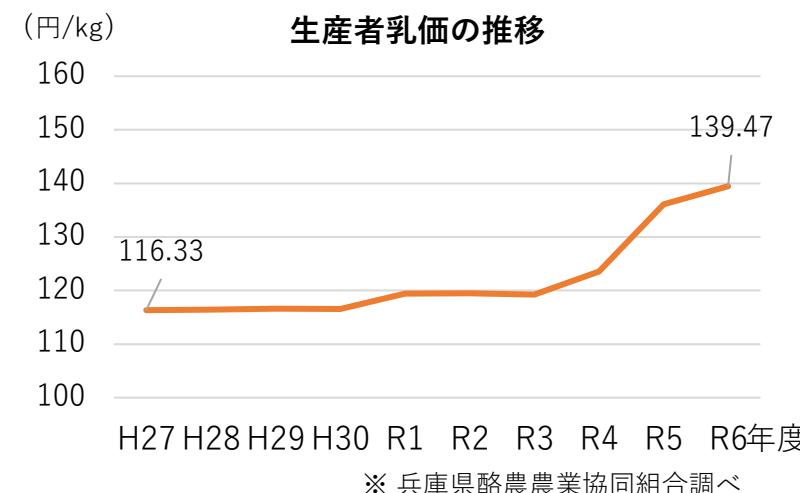
ア 飼育動向

- 生産者の高齢化や飼料価格高騰による廃業が続き、令和6年度の**飼育頭数**は11,600頭(前年度比94.3%)、**戸数**は184戸(同92.0%)に**減少**したが、1戸あたりの飼育規模は63.0頭(同102.4%)に増加
- 令和6年度の**生乳生産量**は72,684t(同98.0%)と**やや減少**(全国の生乳生産量は736万tとほぼ前年並み(前年度比100.5%))



イ 需給及び価格動向

- 全国の牛乳等飲用向けの処理量は、値上げの影響により需要が伸び悩み383万tに微減(同99.3%)、需給調整の役割を担うヨーグルトやチーズ向け等の加工用は349万tに増加(同102.5%)
- 県内の生産者乳価は、飲用向けが令和4年11月と令和5年8月に各々kg当たり10円値上げされたことなどに伴い、139円台に上昇**(令和3年度比117%)
- 今年**8月にも飲用向けがkg当たり4円値上げ**



II 主要家畜の生産振興

(2) 主な振興施策

ア 生産基盤の強化

(ア) スマート酪農の推進

- 労働負担の軽減や生産性向上を図るため、搾乳ロボット^{*1}や発情発見装置、センサー付き細霧装置^{*2}等のスマート機器の導入を支援

* 1 : 搾乳ロボット

- 搾乳回数や搾乳の都度、乳量、乳成分、体重、体温(乳温)などの情報をモニターすることで、適切な個体管理が可能
- 通常1日2回行う搾乳作業を24時間自動で適時に行うことができ、搾乳量の増加と大幅な省力化を実現

* 2 : センサー付き細霧装置

- 温湿度センサーが噴霧量を制御して、水分の気化熱で牛舎を冷却するとともに、過剰な湿度上昇を抑制
- 家畜の体調管理や従業員の負担を軽減



搾乳ロボットによるモニタリング（赤穂市）

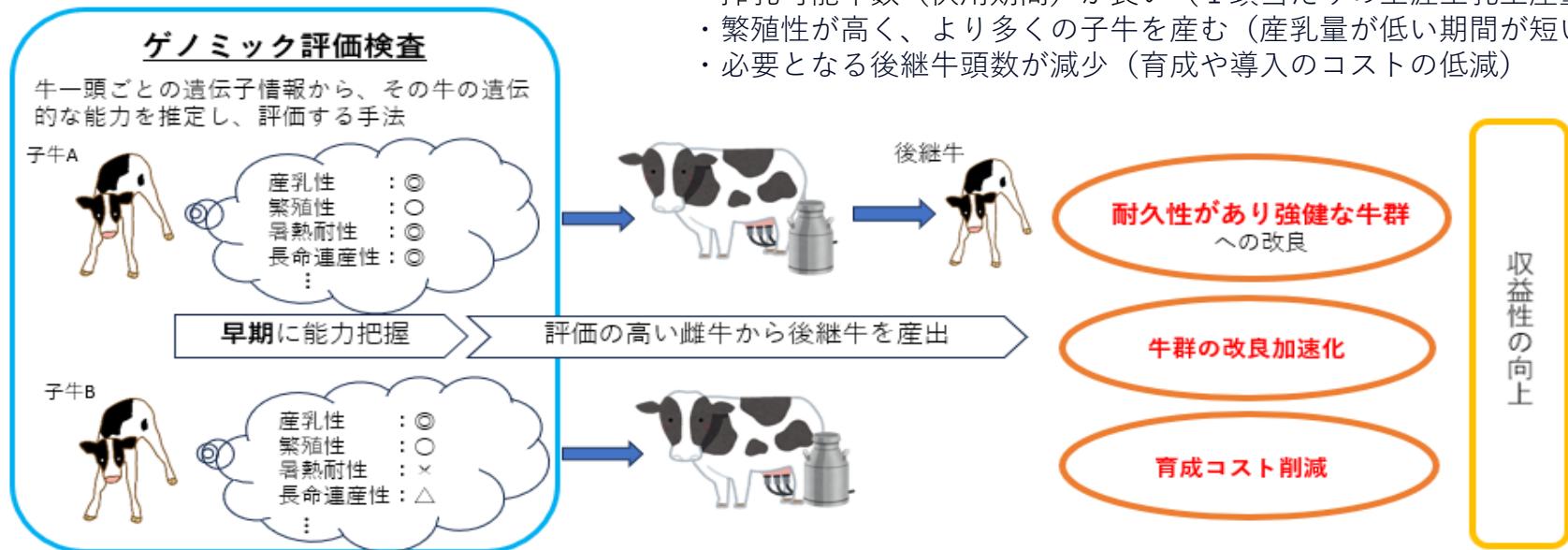


温湿度センサーを備えた細霧装置（姫路市）

II 主要家畜の生産振興

(イ) 生乳の生産性向上

- ・ゲノミック評価検査を支援し、産乳能力に加え、“長命連産”能力*を重視した収益性の高い牛群への転換を推進



【スリック・タイプ ホルスタイン牛（スリック牛）の検証】

- ・近年、酷暑化に伴う生乳生産量の減少や繁殖成績の低下などが顕在化
- ・南米のセネポール種の一部が持つ毛長が短毛となる遺伝子（スリック遺伝子）をホルスタイン種に取り込んだ「スリック牛」は、一般的なホルスタイン種より短毛で発汗量が多いため暑熱に強いことが、海外の研究で報告
- ・淡路農業技術センターでは、全国に先駆けてスリック牛の暑熱耐性や生産性の検証を実施中



II 主要家畜の生産振興

(ウ) 付加価値を高める取組

- 兵庫県但馬牛受精卵移植協議会と連携して、酪農家41戸が受精卵移植により全国的にも価格面で有利な但馬牛子牛を生産
- 6次産業化の取組として、酪農家13戸が牧場に併設する店舗やレストラン等でチーズやジェラートなどを製造、販売

6次産業化の取組状況 (R7.10月現在)

区分	アイスクリーム類	チーズ	低温殺菌乳	ヨーグルト
戸数	9	6	1	1

イ 県産牛乳・乳製品の需要拡大

(ア) 酪農の理解醸成活動(ふれあい体験授業 「もう～もう～スクール」)

- 酪農家が学校に出向き、牛体の構造や子牛の出産について模型を用いた講義や搾乳及びバター作り体験などを提供することなどを通じて生徒らと交流
- 令和6年度は5校306名が参加し、先生方や保護者から好評

(イ) ひょうご食品認証制度の活用

- ひょうご食品認証制度を活用し、県産牛乳・乳製品の需要を拡大

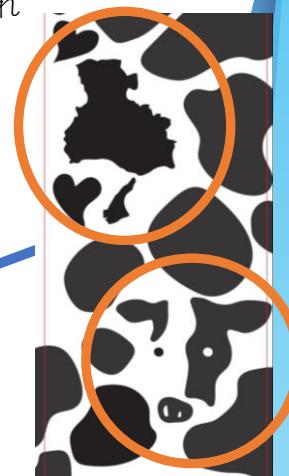
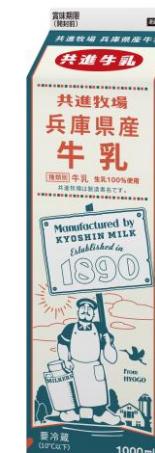
県内乳業メーカーにおける認証状況 (R7.10月現在)

	乳業メーカー	牛乳	ヨーグルト	プリン
品目数	(株)共進牧場	4	1	
	丹波牛乳(株)	3	10	
	淡路島牛乳(株)	2	4	2



もう～もう～スクール（加西市）

側面には兵庫県とホルスタインがあしらわれている



(株)共進牧場135周年記念の新パッケージ

II 主要家畜の生産振興

3 養鶏・養豚の振興

鶏卵・鶏肉・豚肉の生産においては、飼料用米や食品由来のリサイクル飼料を活用するなど、高品質で個性・特長ある畜産物の生産を推進

(1) 養鶏の振興

ア 採卵鶏の最近の動き

(ア) 飼育動向（令和5年度）

飼育戸数は43戸（前年度比100.0%）と**変わらず**、羽数は565万羽（同91.1%）、1戸あたりの飼育規模は13.2万羽（同91.1%）と**減少**

(イ) 需要及び価格動向

- 全国の鶏卵の流通量は260万t/年程度で、国産は95%
- 全国的な鳥インフルエンザ発生に伴う殺処分の増加等により供給不足の傾向にあり、**卸売価格は高値で推移**

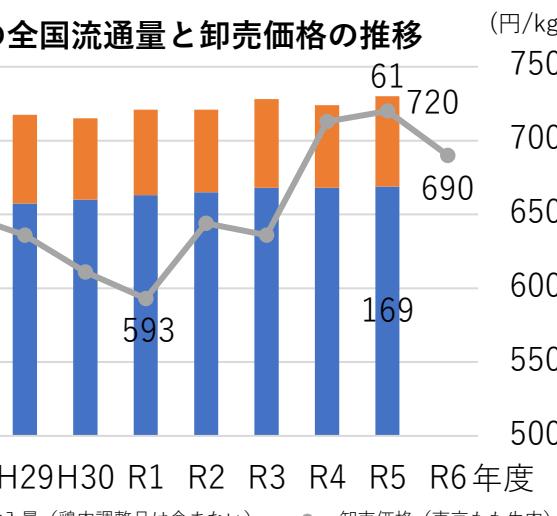
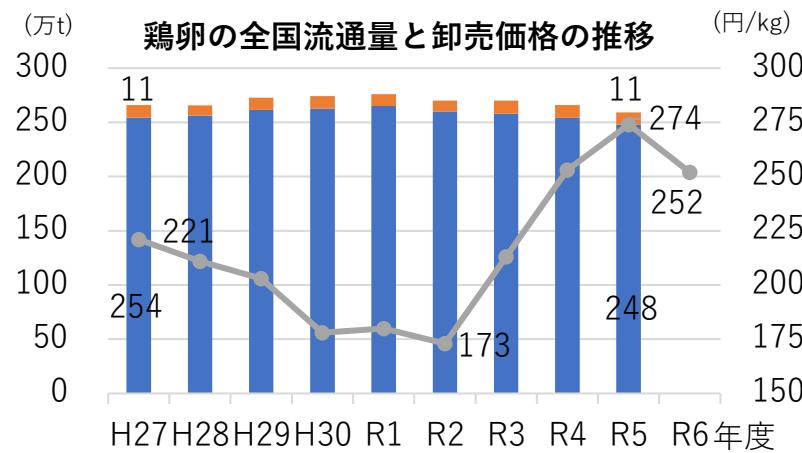
イ 肉用鶏の最近の動き

(ア) 飼育動向（令和5年度）

- 飼育戸数は32戸（前年度比76.2%）に**減少**したが、羽数は241万羽（同108.5%）、1戸あたりの飼育規模は7.5万羽（同142.2%）と**増加**

(イ) 需要及び価格動向

- 全国の鶏肉の流通量は200万t/年を超えて増加傾向で、国産は75%
- 物価高騰に伴う牛肉や豚肉の代替として需要が高まり、**卸売価格は高値で推移**



※ 農林水産省「食糧需給表」、財務省「貿易統計」、食肉鶏卵速報

II 主要家畜の生産振興

ウ 主な振興施策

(ア) 個性・特長を活かした鶏卵・鶏肉の高付加価値化

- ・県産飼料用米など給与する**飼料給与**や平飼いなどの**アニマルウェルフェア**等にこだわった様々な個性・特長を持つ**鶏卵・鶏肉**をひょうご食品認証制度において**認証し、高付加価値化を推進**

ひょうご食品認証制度を活用した鶏卵・鶏肉 (R7.10月現在)

	鶏卵			鶏肉	
特長	飼料 ^{*1}	平飼い ^{*2}	栄養 ^{*3}	長期飼育	無薬飼育 ^{*4}
品目数	14	4	8	1	1

* 1 飼料用米など特長のある飼料を給与

* 2 鶏をケージに入れずに放し飼い

* 3 ビタミンEなど特定の成分が豊富

* 4 抗生物質及び合成抗菌剤を無使用

※ 実品目数19

(イ) 海外向けの需要拡大

①鶏卵

- ・日本食文化が浸透し、卵かけご飯などで生卵の需要が増加している香港における県産鶏卵「ひょうごの穂々笑実」のPRを支援

県産鶏卵の輸出状況 (t)

年	R4	R5	R6
香港	112	100	141
シンガポール	—	—	60

②鶏肉

- ・令和6年に県内1施設が香港へ約194t輸出

【大阪万博会場内フードコートに「オクノの玉子」が登場】

万博会場内のフードコートにて、海苔の老舗メーカー「大森屋」の直営店舗で、「オクノの玉子」*((株)オクノ(加古川市))を使った卵かけご飯を提供

* 地域で栽培した飼料用米など県産素材にこだわった飼料を給与して生産



「オクノの玉子」を使用したメニュー

【平飼いにこだわった鶏卵生産】

県内に4カ所ある鶏舎内を自由に行き来できるケージフリーの飼育場では、給与する餌にもこだわった採卵養鶏が営まれており、付加価値の高い鶏卵の販売を展開



純国産鶏の平飼い養鶏（丹波市）

II 主要家畜の生産振興

(2) 養豚の振興

ア 最近の動き

(ア) 飼育動向 (令和5年度)

- ・**飼育戸数**は16戸(前年度比84.2%)、**頭数は** 20,000頭(同97.1%)と**やや減少**
- ・1戸あたりの飼育規模は1,250頭(同115.3%)と拡大

(イ) 需要及び価格動向

- ・全国の豚肉の流通量は170～180万t/年で、約半分が国産
- ・**卸売価格は**、平成25年度以降概ね500円/kg台前半で推移し、令和4年度以降は物価高騰に伴う牛肉から豚肉への需要のシフト等を背景に**上昇**

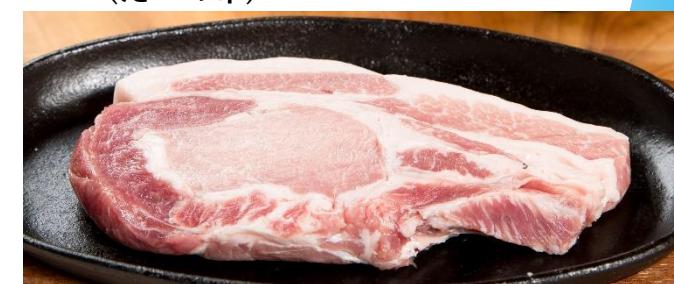
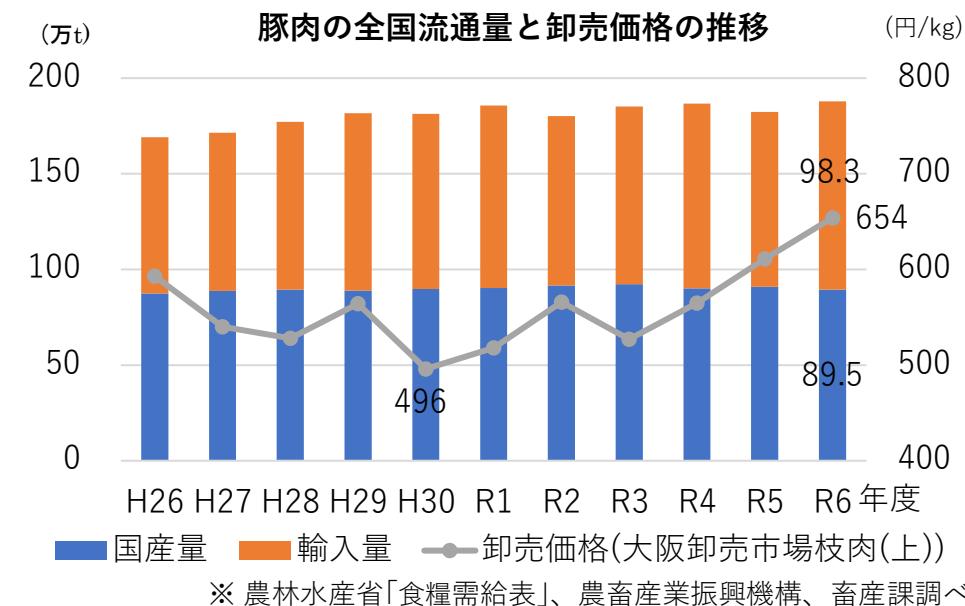
イ 主な振興施策

(ア) ひょうご雪姫ポークの普及推進

- ・「ひょうご雪姫ポークブランド推進協議会」と連携して、肥育後期にでんぷん含量の高いパンや麺類等を含む**エコフィード***を給与した霜降り豚肉「ひょうご雪姫ポーク」の普及を推進

* 食品製造過程の副産物や余剰食品などを原料にして加工処理したリサイクル飼料

- ・現在、3農場で生産され、精肉店やレストラン等の9店舗で提供



III 資源循環型畜産の推進

持続可能な開発目標(SDGs)に関わる取組の一環として、耕畜連携による自給飼料の生産や畜産堆肥のほ場への還元等を進めることにより、飼料自給力の向上と資源循環型畜産を醸成

1 飼料対策の推進

(1) 最近の動き

ア 飼料の価格動向

- ・配合飼料^{*1}価格は令和2年末から、粗飼料^{*2}価格は令和3年半ばから上昇し、高止まりの状態
- ・**配合飼料は、価格上昇時、配合飼料価格安定制度により畜産経営への影響を緩和しているが、令和5年第4四半期以降発動がなく、農家実質負担額は高止まり**
- ・**粗飼料は、価格安定制度がなく、価格の高騰が直接的に経営に影響**

* 1 穀類(とうもろこし、こうりゃん等)、大豆油かす、ふすま、米ぬか等があり、エネルギーやたんぱく質が豊富

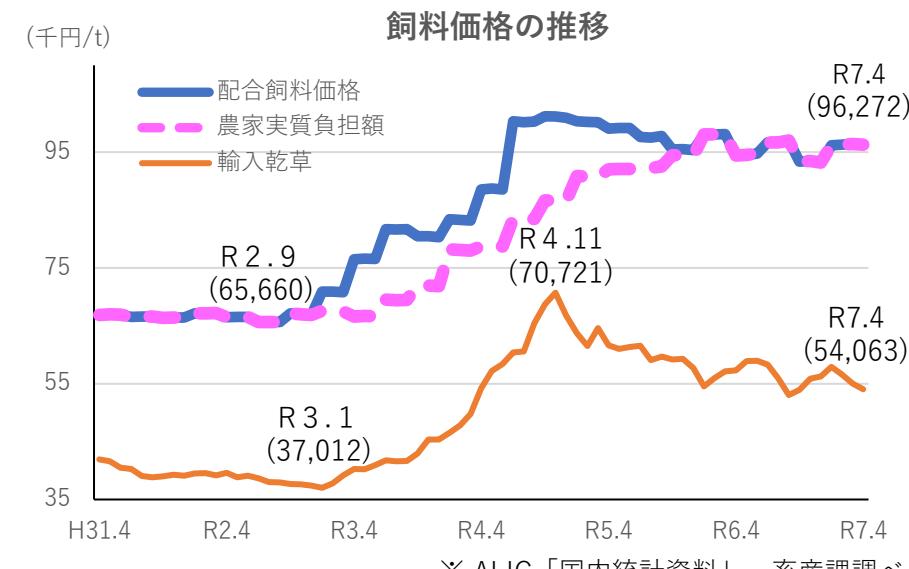
* 2 乾草、サイレージ、わら類等で、纖維質やミネラルなどが豊富

イ 自給飼料の作付動向

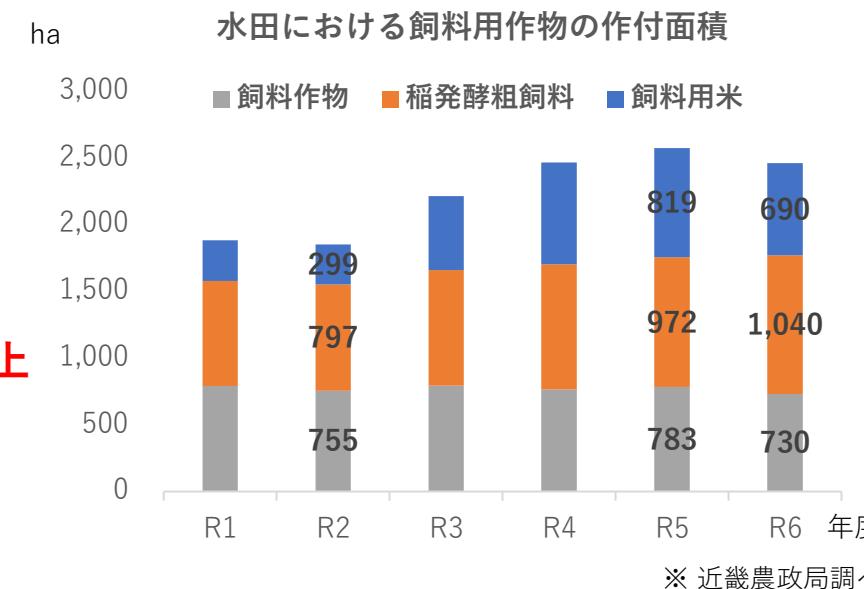
- ・水田における**飼料用作物の作付面積は令和2年度から3割以上増えたものの令和4年度以降ほぼ横ばい**

※ 令和6年度発酵粗飼料(WCS)用稻作付面積1,040ha(令和2年度比130%)

※ 令和6年度飼料用米作付面積 690ha(同231%)



※ ALIC「国内統計資料」、畜産課調べ



※ 近畿農政局調べ

III 資源循環型畜産の推進

(2) 主な振興施策

ア 飼料価格高騰への対応

- 粗飼料、配合飼料の価格高騰に対する一時支援金の措置や飼料増産に必要な機械等の導入を支援

イ 耕畜連携による飼料作物の作付拡大

- 飼料自給力を高め、地域内での資源循環を進めるため、**コントラクター組織や集落営農組織等と連携を強化し、水田を活用した飼料作物の作付けを推進**
- 飼料用米は、契約栽培等出荷相談先リストの提供を通じ、耕種農家と実需者をマッチング
- 遅刈り稻WCSやソフトグレインサイレージ*等、新たな飼料生産に向けた取組も開始**

* 飼料用米を収穫後に粒のまま粉碎、加水後密封して数カ月発酵させたもので、配合飼料中のトウモロコシと一部代替が可能

【丹波市の畜産を支える稻WCS生産の取組】

- 丹波市では、畜産農家の高齢化や稻ワラ不足を背景に、WCS用稻の生産を推進
- 平成14年にJA丹波ひかみが中心となり協議会を設立し、県機関と連携して耕畜連携によるWCS用稻の本格的な生産と繁殖和牛への給与体系を確立
- 令和4年度にはJA出資法人の「株アグリサポートたんば」(飼料生産組織)が作業受託面積の増加を目指す場合に利用できる国庫事業を活用し、大型収穫用機械を導入
- 令和6年度は耕種農家43戸がWCS用稻を生産、繁殖和牛農家22戸、酪農家3戸が稻WCSを給与



新規導入した大型収穫機械

ウ 但馬牛の放牧推進

- 耕作放棄地やスキー場等で但馬牛を放牧して、野草等飼料資源の有効活用と放棄地等の景観を保全
- 令和5年度は344haで1,093頭を放牧

III 資源循環型畜産の推進

2 良質堆肥の生産と有効利用の促進

「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」に基づき、家畜排せつ物の管理の適正化を推進するとともに、資源循環型畜産及び環境創造型農業の拡大を図るため、耕畜連携による良質堆肥の生産と利用を促進

（1）良質堆肥の生産

- ・家畜排せつ物を堆肥として円滑に農地に還元するための**堆肥製造・保管施設やペレット化機械、堆肥散布機の導入を支援**
- ・良質堆肥の生産技術の普及定着と生産意欲の向上を図るため、講習会や**堆きゅう肥共励会**を開催

（2）堆肥利用の推進

- ・肥料価格の高騰等により耕種農家における堆肥の需要が高まっていることを受け、「兵庫県堆肥マップ*」を通じて、**堆肥生産者と耕種農家のマッチング**を促し、地域内外における堆肥の利用を推進

*県内の堆肥生産施設を地域ごとにリスト化したもの
(公社)兵庫県畜産協会が供給者名、所在地、連絡先、原料、成分含量、供給形態等の情報をホームページで公開

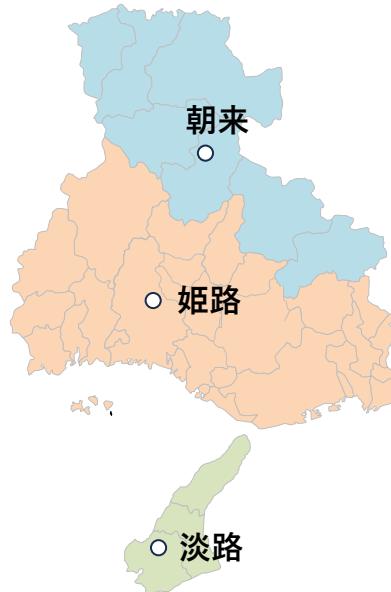
【ペレット化した鶏糞堆肥の活用実証（南あわじ市）】

- ・肥料価格の高騰や環境負荷軽減、有機栽培ニーズの高まりなどから有機質肥料の利用を検討する耕種農家が見られる中、淡路島内の養鶏事業者が耕種農家に利用されやすいよう鶏糞堆肥のペレット化を検討
- ・令和5年度から南あわじ市の主要作物であるレタスやキャベツ栽培時に施肥を実証中

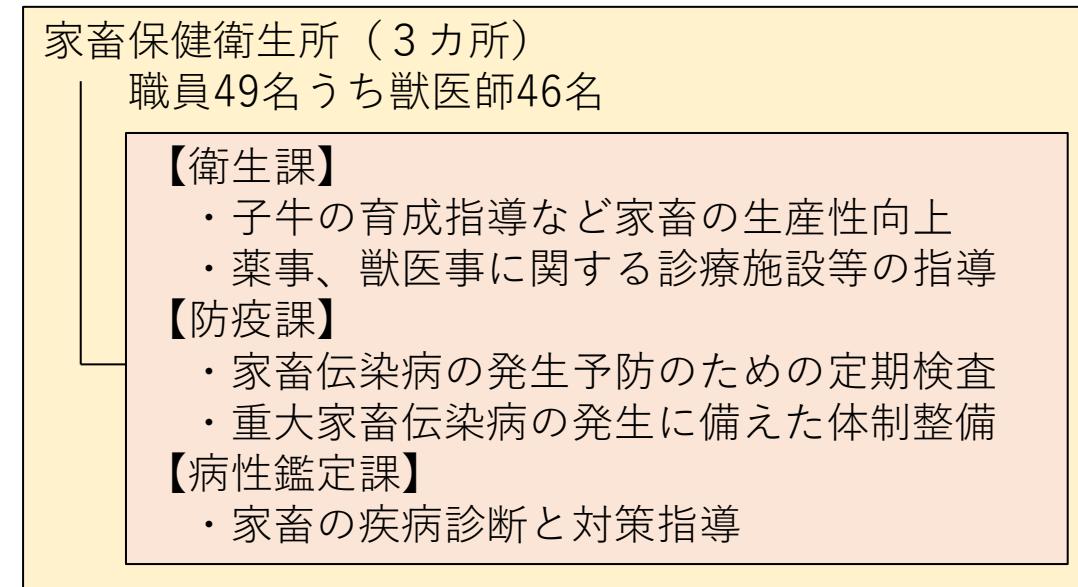


IV 家畜衛生の向上と畜産物の安全性確保

- 県下に3カ所ある家畜保健衛生所において、豚熱、高病原性鳥インフルエンザ並びに口蹄疫等の重大家畜伝染病の発生に備えた危機管理体制を強化、慢性疾病の発生予防と清浄化を推進
- 生産農場における衛生管理指導や動物用医薬品等の適正使用等を通じて、畜産物の安全・安心の確保を推進



家畜保健衛生所の位置図



家畜保健衛生所の組織図

1 家畜衛生の向上

（1）重大家畜伝染病への対応強化

ア 発生予防対策

- 家畜保健衛生所が農場へ巡回して、飼養衛生管理基準の遵守指導を行うほか、早期通報の徹底等により注意喚起を強化
- 国内で発生が続く豚熱対策として、令和3年3月以降、飼育豚へのワクチン接種や野生いのししへの経口ワクチン散布を継続し、養豚場での発生を防止

IV 家畜衛生の向上と畜産物の安全性確保

イ 発生に備えた対策

- 迅速な防疫措置を行うため**民間委託による防疫資材の保管・配送体制を整備**するとともに、**防疫作業の民間委託**の推進、**重大家畜伝染病に関する防疫訓練**、**動員者に対する説明会の開催**、**発生時のマニュアルの見直しなど**により、危機管理体制を強化

【重大家畜伝染病の発生に備えた実践的な防疫訓練】

- 令和6年10月に養鶏場での高病原性鳥インフルエンザ発生を想定した防疫訓練を開催
- 鶏用ケージから鶏を取り出すなど、実際に鶏を殺処分するための特殊な作業を従事者が鶏舎に見立てた敷地内で実演
- 鶏の取り出しから殺処分までの流れを経験することで、発生時の防疫作業効率化を確立
- このような実践的な防疫訓練を県下各地域で開催（令和6年度：14回開催）



実践的な防疫訓練（上郡町）

ウ 監視診断対策

- 高病原性鳥インフルエンザは、侵入リスクが高いとされる渡り鳥が飛来する池に近接する**家きん農場でモニタリング検査**を実施
- 豚熱は、市町や獣友会と連携し、感染源とされる**野生いのししの検査体制を構築**し、豚熱ウイルスの浸潤状況を把握
- 異常家きん・家畜発見の通報時には、閉庁日にも**緊急立入検査体制を確保**



鶏からの血液採取

IV 家畜衛生の向上と畜産物の安全性確保

(2) 牛伝染性リンパ腫対策の推進

- 牛の慢性疾患である**牛伝染性リンパ腫は、全国の発生頭数が増加傾向**
- 県では、本病の清浄化に向け、平成30年度から**但馬牛繁殖雌牛の全頭検査により感染状況を把握し、感染牛の隔離飼育や優先的な淘汰など対策を進め、発生頭数は減少傾向**

牛伝染性リンパ腫の発生状況 (頭)

年次	H27	R1	R5	R6
全国	2,869	4,113	4,493	4,420
但馬牛	41	64	37	33

※ 農林水産省「届出伝染病発生年報」、畜産課調べ

2 畜産物の安全性確保

(1) 農場HACCP^{*1}を活用した衛生管理体制の向上

- 家畜保健衛生所が中心となり、農場において危害要因の管理項目を設け、継続的に監視・記録を行う**農場HACCPの実践や認証取得を推進**
- 動物用医薬品販売業者や獣医師に対して、**動物用医薬品の適正な販売と使用を指導**

(2) 畜産GAP^{*2}の実践と取得推進

- 畜産経営の持続性を確保するため、食品安全・家畜衛生に加え、環境保全や労働安全、アニマルウェルフェアに配慮した生産工程管理や改善の取組である**畜産GAPの実践や認証取得を推進**



畜産GAP認証を取得した養鶏場(姫路市)

県内の認証取得状況 (農場)

区分	肉用牛	採卵鶏	豚
農場HACCP	1	1	1
畜産GAP		4	

*1 Hazard Analysis and Critical Control Point:危害要因分析重要管理点

*2 Good Agricultural Practice:農業生産工程管理